

### ① 国立公園満喫プロジェクト

|      |        |  |
|------|--------|--|
| 内部評価 | 今後の方向性 | 現状のまま継続                                    |
|      | 改善内容   |  |
| 外部評価 | 今後の方向性 | さらに重点化を図る 6人<br>現状のまま継続 7人<br>内容を改善して継続 1人 |

※内部評価は令和4年6月に実施した事業担当課による評価。改善内容は、令和4年度に取り組む内容。

|   | 評価項目   | 指摘事項  |
|---|--------|---|
| 1 | 妥当性    | <ul style="list-style-type: none"> <li>「ナショナルパーク」としてのブランド化を図る上で必要な事業に取り組んでおり、一定の実績があるため妥当と考えます。</li> <li>十和田湖や奥入瀬溪流の地形が変わるなど、想定を超える災害の発生などを見据えて検討していただきたい。</li> <li>仕組みづくりができたので、継続して評価していただきたい。</li> <li>妥当と考えます。</li> </ul>   |
| 2 | 有効性    | <ul style="list-style-type: none"> <li>十和田湖、奥入瀬溪流の全体を通してのランドデザインは必要と思います。</li> <li>奥入瀬溪流の倒木の撤去に迅速に対応できるよう、県と連携していただきたい。</li> <li>参加事業者が少ないと感じます。</li> <li>有効性はあると考えます。</li> </ul>   |
| 3 | 効率性    | 特になし  |
| 4 | 公平性    | 特になし  |
| 5 | 事業の方向性 | <p><b>さらに重点化を図る</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>十和田湖や奥入瀬溪流の豊かな自然という強みを生かし、訪れる目的を限定しない多様性のある場所として再構築する事業はとても重要であると考えます。</li> <li>他の地域との差別化を図った特別なコンセプトが必要と考えます。</li> </ul> <p><b>現状のまま継続</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>今の事業をPRしながら、観光客をコロナ禍前に戻すよう取り組みばよいと思います。</li> <li>新型コロナウイルス感染症のために目標に達していない点もありますが、今後の発展が期待できるため継続することが妥当と判断しました。</li> <li>継続して事業を進め、課題の改善に努めていただきたい。</li> <li>環境省との連携を密にし、景観改善に努めていただきたい。</li> </ul>  |
| 6 | その他提言等 | <ul style="list-style-type: none"> <li>休屋の民間参入については、関係機関の立場で連携して取り組んでいきたい。</li> <li>ワーケーションやビジネスにおいてはどこにいても使えるWi-Fi環境の整備が重要と考えます。もしくは逆にデジタルデトックスを推進し、人間的に快適な環境をビジネスユース向けに提供できる場所（グランピング会議室など）も魅力的ではないでしょうか。</li> <li>紅葉期の渋滞対策は、今後、来訪者の増加が見込まれる赤沼でも課題になりそうですが、展望デッキの整備や植生への影響について、早めに考え方や方針を打ち出してほしいと思います。</li> <li>登山道整備は需要が見込まれるため、早期に整備に取り組んでいただきたい。</li> <li>近年は、国立公園の利用面が強調されている印象が強いです。国・県の動向もあるので、市単独で対応できない側面はあると思いますが、施策の推進に当たっては、自然景観の保護・保全の視点を忘れずに進めていただきたい。例えば、目的地までのアクセスを改善することと、目的地一帯を人工的な開けた景観にすることは質の異なる問題だと思います。</li> </ul> |

## ② 中心市街地活性化

|      |        |  |
|------|--------|--|
| 内部評価 | 今後の方向性 | 内容を改善して継続                                  |
|      | 改善内容   | 中心市街地の将来像について、商店街と協議を進める。                  |
| 外部評価 | 今後の方向性 | さらに重点化を図る 6人<br>現状のまま継続 2人<br>内容を改善して継続 6人 |

※内部評価は令和4年6月に実施した事業担当課による評価。改善内容は、令和4年度に取り組む内容。

|   | 評価項目   | 指摘事項  |
|---|--------|---|
| 1 | 妥当性    | <ul style="list-style-type: none"> <li>中心市街地活性化のための事業が進んでおり、コンパクトで持続可能なまちづくりが期待できると思われます。</li> <li>商店街の活性化は必要と考えます。</li> </ul>  |
| 2 | 有効性    | <ul style="list-style-type: none"> <li>中心市街地活性化の核となるのは「とわふる」と思います。課題を洗い出しながら有効活用を進めていただきたい。</li> <li>建物ばかりが目立ち、人の回遊につながる方向性が見えません。</li> </ul>   |
| 3 | 効率性    | <ul style="list-style-type: none"> <li>コロナによる影響が大きく、仕方がないと考えます。</li> </ul>  |
| 4 | 公平性    | 特になし  |
| 5 | 事業の方向性 | <p><b>さらに重点化を図る</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>本年度に完成した施設を有効に生かすため、具体的な方策を考えていただきたい。</li> <li>中心市街地には魅力的な建造物がたくさんあるので、積極的に活用していただきたい。</li> </ul> <p><b>現状のまま継続</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>なかなか難しい課題が多くありますが、現状のままの事業を継続しつつ、活性化に繋げていける事業を見つけてはどうでしょうか。</li> </ul> <p><b>内容を改善して継続</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>各種施策による効果と市民の感覚に乖離を感じますが、その要因としては最終的なゴールを絵的に示していないことが考えられ、多くの人や団体間では『活性化』という言葉が共通言語になっていません。</li> <li>歩行者・自転車通行量や空き地・空き店舗数の調査結果を踏まえ、中心市街地活性化基本計画に反映されることを期待します。</li> <li>中心市街地の賑わいの創出に向け商店街と協議を重ねていただきたい。</li> <li>空き店舗の事業継承や新規事業者の誘致を含め、中心市街地の賑わいを創出していただきたい。</li> <li>コンセプトは何か、中心市街地の未来図を示していただきたい。</li> </ul>      |
| 6 | その他提言等 | <ul style="list-style-type: none"> <li>まちなかの整備は進捗していますが、周辺整備やアーケードの解体撤去、商店街のフラワーポットの整備などについて、市として今後どのように進めて行くのか。十和田市を訪れる方々への印象を良くし、また当市に訪れたいと思われるようにしていただきたい。</li> <li>活性化した中心市街地のイメージを具体化していただきたい。</li> <li>成果指標の再設定、定量評価しにくい部分をどのように評価、分析し、事業に反映していくのが重要と考えます。</li> <li>「とわふる」はバンド練習ができるとのことですが、駐車場がなく、利用者にとっては楽器の搬入が不便なのではないかと思えます。利用率にもかかわると思うので、対策を考えてはいかがでしょうか。（補足説明：10t車両が通れる通路と車両が乗入できる搬入口スペースを設けています。）</li> <li>「とわふる」をどう活用するのか、その対策が後手に回っているという印象です。オープンが遅れた分利用に向けた機運を盛り上げる時間もあつたのではないのでしょうか。</li> <li>当面はこんな使い方もできるという仕掛けを市側が示す必要もあると思えます。現代美術館のサブ施設としての側面を打ち出すのなら、今後の展望をアピールすべきです。壁画のお披露目の時期が一つのポイントになると感じます。</li> <li>市がどのようなまちづくりを目指しているのか方向性を示しながら事業を進めていただきたい。</li> </ul> |

### ③ 妊娠期からの切れ目のない子育て支援

|      |        |  |
|------|--------|--|
| 内部評価 | 今後の方向性 | さらに重点化を図る  |
|      | 改善内容   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ほっとマミーサロンを含む子育て安心サポート事業を見直し、父親等の家族を対象に内容の充実を図る。</li> <li>・産後ケア事業の対象時期や回数を見直し、産後の支援の充実を図る。</li> <li>・子育てに関する情報を容易に収集・管理できるよう、子育て情報配信システムの見直しを図る。</li> </ul> |
| 外部評価 | 今後の方向性 | さらに重点化を図る 5人<br>現状のまま継続 8人<br>内容を改善して継続 1人   |

※内部評価は令和4年6月に実施した事業担当課による評価。改善内容は、令和4年度に取り組む内容。

|   | 評価項目   | 指摘事項   |
|---|--------|--|
| 1 | 妥当性    | <ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 産後、子育てに不安を抱える妊産婦などが増えていることから、市民の需要に答えていただきたい。</li> <li>◆ 絶対に必要な事業と考えます。</li> <li>◆ 事業実績から、妥当と思います。</li> </ul>   |
| 2 | 有効性    | <ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 妊娠期から子育て期まで、切れ目のない相談・支援体制ができており、事業は妥当と考えます。</li> <li>◆ 経費的に見ても、市が主導して取り組む事業だと思います。</li> </ul>   |
| 3 | 効率性    | 特になし   |
| 4 | 公平性    | 特になし   |
| 5 | 事業の方向性 | <p><b>さらに重点化を図る</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 今後の少子化を考えると重要な事業であると判断します。</li> <li>◆ 満足度も上げられるようさらなる支援強化が必要だと考えます。</li> <li>◆ 育児・介護休業法が10月1日に改正（産後パパ育休の法制化）されたので、その制度も活用できる支援体制や今後の改善内容を実行していただきたい。</li> </ul> <p><b>現状のまま継続</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆ おおむね達成できていることから、支援策としては良いものと思います。</li> <li>◆ 成果が出ていると考えます。</li> <li>◆ 産科は医師不足の顕著な分野であり、周産期の行政支援はより重要性が高いと思います。</li> <li>◆ 市はかなり気を配った対応をしていると感じます。地道に取組を継続していただきたいし、それが望まれる分野だと思います。</li> </ul> <p><b>内容を改善して継続</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆ もっと相談しやすい、参加しやすい環境を作っていただきたい。</li> </ul> |
| 6 | その他提言等 | <ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 育児・介護休業法の改正もあったことから、補助的役割ではなくどちらも同じように参画するために企業へ働きかけるなど、男性の育児・家事への参加を更に促進していただきたい。</li> <li>◆ 関係機関と連携しながら、乳幼児期から18歳まで一人も取り残すことのないよう、切れ目のない支援をしていただきたい。</li> </ul>   |

④ 健康診査の推進

|      |        |   |
|------|--------|---|
| 内部評価 | 今後の方向性 | 現状のまま継続                                     |
|      | 改善内容   |   |
| 外部評価 | 今後の方向性 | さらに重点化を図る 2人<br>現状のまま継続 10人<br>内容を改善して継続 2人 |

※内部評価は令和4年6月に実施した事業担当課による評価。改善内容は、令和4年度に取り組む内容。

|   | 評価項目   | 指摘事項   |
|---|--------|--|
| 1 | 妥当性    | <ul style="list-style-type: none"> <li>がん死亡率が高い状況であることから、早期発見・早期治療に繋がる事業として、行政の支援が必要と考えます。</li> <li>短命県返上のためにも必要と考えます。</li> <li>健康寿命延伸のため、必要不可欠と考えます。</li> </ul>   |
| 2 | 有効性    | <ul style="list-style-type: none"> <li>一定の数値は確保できているようですが、まだまだ不十分だと思います。</li> </ul>  |
| 3 | 効率性    | 特になし   |
| 4 | 公平性    | 特になし   |
| 5 | 事業の方向性 | <p>さらに重点化を図る</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>短命県返上のためにも、市で出来る事業については、引き続き重点的に取り組んでいただきたい。</li> </ul> <p>現状のまま継続</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>健診はするものの、再検査に行かない場合も多いため、青森県は、がん死亡率が全国で一番から改善されていない状況にあります。以上のことから、現状のまま継続でよいと思います。</li> <li>各種がんの早期発見は、短命県返上にも必要な事業であると判断します。</li> <li>早期発見・早期治療が必要と思いますので、支援体制の充実を図り、積極的に取り組んでいただきたい。</li> <li>がん検診は、必要とわかっていても足が向かないものの一つかもしれません。受診率向上へ市もいろいろ取り組んでいるようですが、なぜ受診しないのか理由を分析し、その理由ごとにあつた対策を進めていくしかないのではないのでしょうか。</li> <li>受診率を向上させる取組を実践していただきたい。</li> <li>受診率向上のために、強くPRしていただきたい。</li> </ul> <p>内容を改善して継続</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>受診率の低さ、成果指標の拡充が求められると思います。</li> </ul> |
| 6 | その他提言等 | <ul style="list-style-type: none"> <li>費用免除以外のインセンティブの付与を検討していただきたい。</li> <li>企業との連携を検討していただきたい。</li> </ul>  |

⑤ 緊急通報体制等整備

|      |        |   |
|------|--------|---|
| 内部評価 | 今後の方向性 | 内容を改善して継続   |
|      | 改善内容   | チラシの配布や、市役所1階フロアでのモニター放映のほか、直接訪問するなどの改善を行い、多様な方法による周知に取り組む。 |
| 外部評価 | 今後の方向性 | さらに重点化を図る 1人<br>現状のまま継続 5人<br>内容を改善して継続 8人                  |

※内部評価は令和4年6月に実施した事業担当課による評価。改善内容は、令和4年度に取り組む内容。

|   | 評価項目   | 指摘事項  |
|---|--------|---|
| 1 | 妥当性    | ◆ 妥当と考えます。  |
| 2 | 有効性    | ◆ 救急医療情報キットが活用されていることから、当該事業は効果があると思います。<br>◆ PR不足だと思います。   |
| 3 | 効率性    | 特になし  |
| 4 | 公平性    | 特になし  |
| 5 | 事業の方向性 | <p><u>現状のまま継続</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 各機関・団体等との連携を密にしながら現状のまま継続でよいと思います。</li> <li>◆ 対象者、家族のニーズと効果を反映しながら継続すべきと考えます。</li> </ul> <p><u>内容を改善して継続</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 取組に関する認知度が低いように思います。</li> <li>◆ 救急医療情報キットの設置は有効性があると判断します。</li> <li>◆ 救急医療情報キットの設置世帯を増やす取組を積極的に進めていただきたい。</li> <li>◆ 救急医療情報キットの必要性をもっと訴えることが重要であると感じます。その際に、緊急医療を施す側だけでなく、受ける側にとってのメリットをもっと伝えてはどうでしょうか。</li> <li>◆ 周知方法を改善して利用者数の向上を図っていただきたい。</li> <li>◆ 実績から見て、妥当性・有効性・効率性・公平性に問題があると考えます。</li> <li>◆ 周知不足が顕著であると感じます。あらゆる手法を投じて周知していただきたい。</li> </ul> |
| 6 | その他提言等 | <ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 導入を見送ったロボットは、サービスや機能は十分でないと言えるが、インターネット等を活用した見守りによる期待や効果は残存していると考えます。</li> <li>◆ 医療情報を記入するということが普及の支障の一つになっていると感じます。個人情報という問題が絡むかもしれませんが、高齢者が自分で記入しなくてもいい方法を検討する必要があるのではないのでしょうか。</li> </ul>   |

### ⑥ 移住・交流への支援体制の強化

|      |        |   |
|------|--------|---|
| 内部評価 | 今後の方向性 | さらに重点化を図る   |
|      | 改善内容   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 移住候補地として認知度を高めるため、移住情報を効果的に発信する。</li> <li>・ これまでターゲットとしていた若年世代や子育て世代に加え、リモートワーカー等の移住促進に取り組む。</li> <li>・ 県と共同で運営するマッチングシステムを活用した婚活支援や新婚世帯に対する経済的な支援、結婚後の生活を考えるセミナーの開催などにより、出会い・結婚への支援体制の強化を図る。</li> </ul> |
| 外部評価 | 今後の方向性 | さらに重点化を図る 7人<br>現状のまま継続 6人<br>内容を改善して継続 1人  |

※内部評価は令和4年6月に実施した事業担当課による評価。改善内容は、令和4年度に取り組む内容。

|   | 評価項目   | 指摘事項  |
|---|--------|---|
| 1 | 妥当性    | <ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 妥当と考えます。</li> <li>◆ さらに推進していただきたい。</li> </ul>  |
| 2 | 有効性    | <ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 移住・定住支援制度を活用した世帯及び人数が増加しており、当該事業は妥当と考えます。</li> <li>◆ 有効だと思います。</li> </ul>  |
| 3 | 効率性    | 特になし  |
| 4 | 公平性    | 特になし  |
| 5 | 事業の方向性 | <p><b>さらに重点化を図る</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 成果があらわれているものと考えます。</li> <li>◆ 移住・定住の促進に向け継続的な支援が必要だと思いますので、支援体制の強化をすべき事業だと考えます。</li> <li>◆ 出会い、結婚の支援は、農業委員会でも実施しているので、連携した取組や照会等も検討してはどうでしょうか。改善内容を共有し、課題の解決に努めていただきたい。</li> <li>◆ 移住してきた人が、2年、3年後に定住しているか確認が必要だと考えます。</li> <li>◆ 地元の人々との交流の場をもっと作っていただきたい。</li> </ul> <p><b>現状のまま継続</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 事業内容は、徐々に浸透しつつあると思いますので、現状のまま継続をお願いしたいと思います。</li> <li>◆ 事業を開始してから移住者が増加しており、人口減少の抑制のためにも継続的な活動が必要であると判断します。</li> </ul> |
| 6 | その他提言等 | <ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 人口増に繋がっている近隣自治体は、原子力発電所や自衛隊などのベッドタウン的な開発により増えているように感じます。</li> <li>◆ ターゲットの一つとして県内移住も促進する観点から、福祉の充実や安価な分譲など、移り住みやすい環境づくりを推進してはどうでしょうか。</li> <li>◆ 取り組んでいる内容は他の県内市町村とそう変わらないのに市への移住者が多いのはなぜか。そこに市が政策として守る、支える、伸ばすべきポイントがあるように思います。</li> <li>◆ 評価されている部分をデータとして活用し、PRしていただきたい。</li> </ul>   |

### ⑦ 公共交通の維持・確保

|      |        |   |
|------|--------|---|
| 内部評価 | 今後の方向性 | さらに重点化を図る   |
|      | 改善内容   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・バス運行事業者等と連携し、平均乗車密度を満たすよう運行経路や運行ダイヤの再編等を行う。</li> <li>・新規利用者の確保に向けた、事業の周知を図る。また、利用者へのアンケート調査を実施し、停留所や運行時間の見直しを図り、よりニーズに合った運行を検討する。</li> <li>・乗り継ぎの工夫や市民のニーズを把握するという委員の意見を踏まえ、利用状況を検証し、利用しやすい運行を検討する。また、まちなか交通広場の供用開始に伴い、市街地循環バス・西地区シャトルバス、既存の路線バス、予約制乗合タクシーなどの様々な公共交通のネットワークを構築し、利便性の向上を図る。</li> </ul> |
| 外部評価 | 今後の方向性 | さらに重点化を図る 8人<br>現状のまま継続 4人<br>内容を改善して継続 2人  |

※内部評価は令和4年6月に実施した事業担当課による評価。改善内容は、令和4年度に取り組む内容。

|   | 評価項目   | 指摘事項  |
|---|--------|---|
| 1 | 妥当性    | <ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 高齢化が進む中、移動手段である公共交通の利便性の確保は不可欠です。</li> <li>◆ 妥当と思います。</li> <li>◆ 適合しています。</li> </ul>   |
| 2 | 有効性    | <ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 循環バス、シャトルバスの利用者が増えていることから事業が有効に機能していると思います。</li> <li>◆ 一部効果はありますが、疑問が残ります。</li> <li>◆ 見直しの余地はありません。</li> </ul>   |
| 3 | 効率性    | 特になし  |
| 4 | 公平性    | 特になし  |
| 5 | 事業の方向性 | <p><b>さらに重点化を図る</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 新たな計画の策定により、さらに有効的な事業を推進すべきと考えます。</li> <li>◆ 高齢者、生徒などの移動手段の確保は重要な事業であると判断します。</li> <li>◆ 市民サービスの観点から、いずれの事業も必要と思われるため、取組の強化を図っていただきたい。</li> <li>◆ 車社会が根付いているため、公共交通の確保は厳しいと思います。シャトルバス、路線バス等のない地域が増えているので、予約制乗合タクシーの需要がますます増加してくると思います。</li> <li>◆ 高齢者の免許返上に伴う交通弱者が増加すると思います。対応の強化を願います。</li> </ul> <p><b>現状のまま継続</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆ バス事業者の運営に影響が出ない環境を作りながら、現状の事業を継続していただきたい。</li> <li>◆ 循環バス等もう少しPRをすることで利用が増えるのではないのでしょうか。市の交通環境は、良くやっていると思います。</li> <li>◆ 市民の貴重な足となるため継続的に取り組んでいただきたい。</li> </ul> <p><b>内容を改善して継続</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 次期市地域公共交通計画を策定する中で、内容の改善が図られるだろうとの思いで「内容を改善して継続」としました。</li> </ul> |
| 6 | その他提言等 | <ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 計画策定においては、現状分析をしっかりと行い検討していただきたい。</li> <li>◆ 路線バス整備などに伴い雇用へ影響する可能性もあることから、考慮の上計画を策定していただきたい。</li> <li>◆ 少し論点は異なりますが、県南沿岸部で大きな災害が起きた場合、十和田市は大震災時の遠野市のような役割が期待されるのではないかと思います。道路網を含めた公共交通の整備・維持確保については、市レベルに加えてより広域的“災害支援都市”としての視点も必要と思います。</li> <li>◆ 公共交通を利用できない市民から不満の声を聞いています。アンケート調査では、広く市民の意見を聞きながら、市民の足の確保について前向きに取り組んでいただきたい。</li> </ul>  |